

坂上貴之・井上雅彦  
『行動分析学』  
テキスト採用者向け図表データ

有斐閣

※ この図表データは、坂上貴之・井上雅彦著『行動分析学』（有斐閣）を大学等のご授業・ゼミ等にてテキストとして採用いただきました先生方に限定して著作権の範囲内で提供しております。ご講義などにぜひご活用ください。

ご利用の際は、以下の3点につきましてご留意いただきますよう、お願い申し上げます。

- ①本データを商用利用しないこと
- ②本データを第三者に譲渡しないこと
- ③本データを教育目的以外に使用しないこと

注意：著作権上の都合でご利用頂けない画像もございます



## POINT ① 行動を説明する3つの出来事

- (1) **生得的出来事**：生得的なもの（例：よく“切れる”性格であった）
- (2) **履歴的出来事**：これまでの経験や行動の履歴（成績が良くなかった，仕事をよく変えていた，借金を負っていた，上司と喧嘩した，交番の位置を確認していた）
- (3) **現前的出来事**：直前の状況（殴りかかれた）やその場にあった状況（周りに人の気配がなかった）

表 2-1 さまざまな対象行動とセッション時間

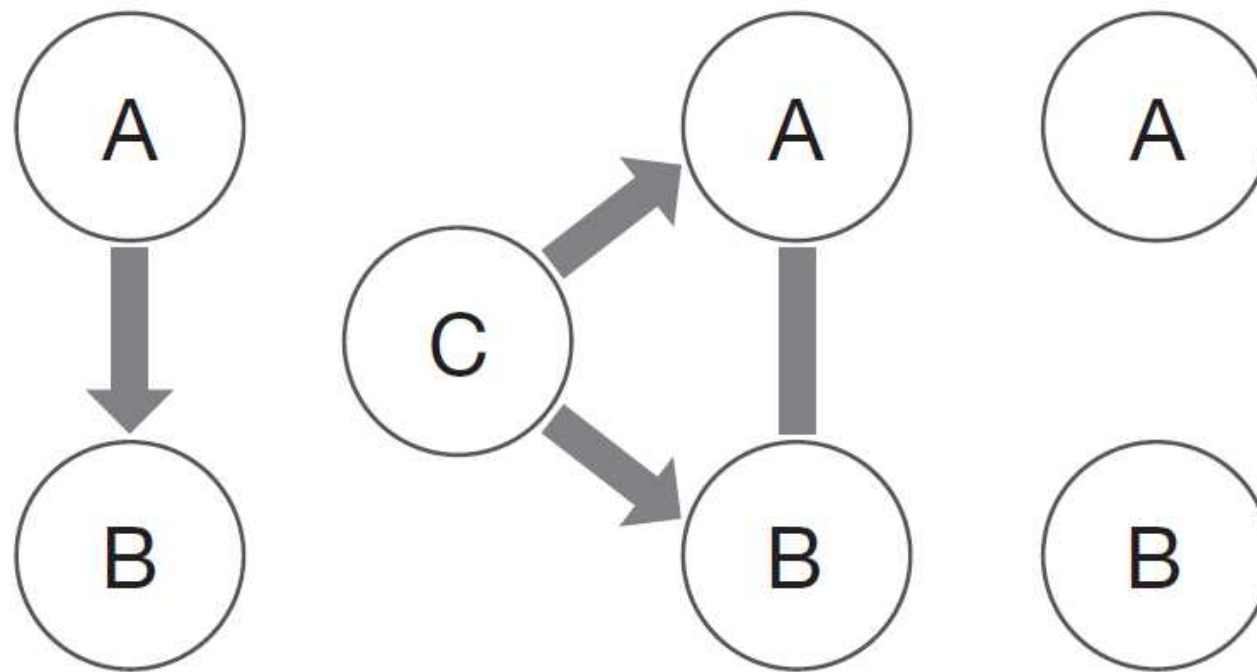
|     | 個体          | 反応                   | 実験や<br>観察の<br>場所 | 観察対象となる<br>行動や所産                                                  | 開始時刻              | 1 セッ<br>ションの<br>時間  |
|-----|-------------|----------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------------|---------------------|
| 例 1 | ハト          | キイツつ<br>き反応          | 実験箱              | 反応出現時刻と<br>強化子提示時刻                                                | 午前 10 時           | 数 10 分<br>から<br>数時間 |
| 例 2 | ラット         | レバー<br>押し反応          | 実験箱              | 反応出現時刻と<br>強化子提示時刻                                                | 午後 6 時            | 数 10 分<br>から<br>数時間 |
| 例 3 | ヒト<br>(大人)  | 喫煙行動                 | すべての<br>場所       | タバコの本数                                                            | 起床時刻              | 1 日                 |
| 例 4 | ヒト<br>(子ども) | クラスメ<br>イトへの<br>他傷行動 | 学校               | 有無もしくは回数                                                          | 授業中と<br>休み時間      | 数時間<br>程度           |
| 例 5 | ヒト<br>(子ども) | 夜尿症                  | 寢床               | 有無もしくは回数<br>と尿が出た時間、<br>場合によっては 1<br>回当たりの量、排<br>尿時に起床したか<br>否かなど | 就寝時<br>から<br>起床まで | —                   |



## POINT ② 行動観察法の分類

|            |             |                              |
|------------|-------------|------------------------------|
| (1) 連続記録法  | 頻度記録法       | セッション内の標的行動の生起頻度を記録          |
|            | 実時間記録法      | 標的行動の開始と終了時刻を記録              |
| (2) 準連続記録法 | 部分インターバル記録法 | 当該区間内に標的行動が生起したかどうかを記録       |
|            | 総インターバル記録法  | 当該区間中に標的行動が持続した場合に記録         |
| (3) 離散記録法  | アドリブ記録法     | 本観察に入る前の非系統的な記録              |
|            | 瞬間記録法       | セッション内のあらかじめ設定した複数個の区切り時点で記録 |

図 2-1 事象 A と B についての 3 つの関係



- (1) 因果関係  $A \rightarrow B$     (2) 相関関係  $A \text{---} B$     (3) 独立関係  $A : B$

事象 A は事象 B  
の原因

$C \rightarrow A$  と  $C \rightarrow B$  は  
因果関係

事象 A の後に事象  
B が偶然に出現